

平成28年度 事業計画書

平成28年3月31日
公益財団法人 落柿舎 保存会
理事長 中井 武文

事業の計画

「俳人向井去来の別業である落柿舎を永久に保存し、俳句並びに俳諧の興隆発展に寄与すること」(定款第3条)を目的として、昭和37年12月に設立されてから54回目の事業計画を申し上げます。

(1) 落柿舎の公開事業

- ①入庵料を徴して去来先生の草庵を一般に開放し、投句箱を通して入庵者が詠まれた俳句を受け付けるなど、落柿舎の公開事業を継続する。
- ②平成28年度の入庵者数は、アジア系観光客は増加しているものの嵯峨野地域に対する観光事情の変化等により集客数の大幅増が見込めないため、前年度実績や入庵料等を勘案して入庵者合計を46,500人(約1100万円)として予算を組む。
- ③また、入庵者の増大を図るため、周辺地域への支援依頼や、観光及び鉄道・バス関係、出版社・放送局等マスコミ企業に対するの広報を拡充し、ネット環境もさらに充実させる。
- ④公開する草庵の遺跡・遺物や庭園等の整備・拡充と、施設(藤棚下ベンチ・竹穂垣)などの新設および修復工事を行う。
- ⑤俳諧季題に関する草木・花の植栽等庭園管理を継続的に行う。

(2) 情報の提供事業

季刊誌『落柿舎』を継続的に発行(4月1日、7月1日、10月1日、1月2日発行の予定)し、購読希望者や入庵者全員に配布するとともに、俳諧研究の一助となるよう俳諧に関するエッセイやコラムを掲載するなど、落柿舎の護持と啓蒙のための情報提供を行う。

(3) 施設の提供事業

俳句会その他俳諧に関わる会合を中心に、一般に広く施設(次庵・文庫)を開放し、利用希望者への施設提供事業に努める。

(4) 書誌および書籍の制作・頒布事業

- ①去来・芭蕉翁等に関する文献の蒐集に務め、蔵書整備を継続し、俳諧に関する図書・雑誌等を通じて俳諧文化の啓蒙を行う。
- ②俳諧に関する書籍等の出版・頒布事業の充実を図る。

(5) 顕彰事業

松尾芭蕉・向井去来の顕彰として次の事業を行い、落柿舎の護持承継を推進する。

- イ) 芭蕉翁落合句碑祭(46回、献花) 日時:平成28年9月3日(土) 11時30分
- ロ) 去来祭(313年祭) 日時:平成28年10月10日(月・祝) 11時
- ハ) 去来の墓石や祠、庵内の句碑、落合の句碑等の管理・整備を行う。

ニ) その他落柿舎以外の法人等で開催される俳諧の顕彰に係わる事業への支援・参加。

(6) その他目的を達成するため必要な事業

- ①句会席・季刊誌購読等の公益収入の増加や、収益事業に係る事業の新たな調査・展開及び商品開発に努める。
- ②祠と広場の土地取得への調査・交渉及び契約等を実施する。(平成28年度取得予定)
- ③落柿舎の遺蹟(登録有形文化財)を、国(府市)の指定文化財に向けての調査を継続する。
- ④入庵者に対する落柿舎啓発のための遺蹟・遺物及び景観を充足する。
- ⑤庵内の防火・防犯等に関わる設備を整え、鳥獣被害に対する施策も講じる。以上

